

下北手地区社会福祉協議会 設立50周年 記念事業シンボルマーク受賞作発表



最優秀賞

明桜高等学校 阿部 怜さん

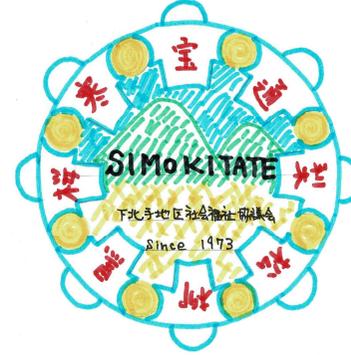
「下北手」の、「下北」の漢字をマークとして表し、「手」の部分でイラストで表しました。また象徴である藤の花もイラストにして、「下北手らしさ」を表しています。



優秀賞

明桜高等学校 鈴木将也さん

紫色が藤の花を表し、青色が、水、緑と茶色で木を表す。そして、下北手が1つになっていることを表す。



優秀賞

会社員 齋藤 満さん

太平山と黄金色の田んぼの元で構成される地域の人々が手を取り合っている。



審査員特別賞

下北手小学校 加藤 怜さん

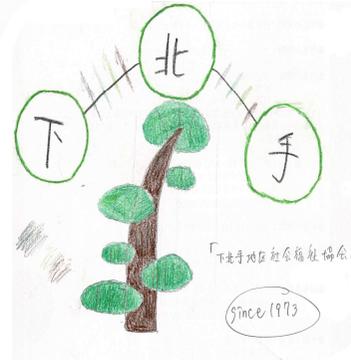
あかるげんきな下北手



佳作

西台 満さん

「太平山をバックに、健康的な田舎」をイメージしました。



佳作

明桜高等学校 大町璃音さん

下北手を想像した時マツの木が思い浮かびそれをベースに自分が思う下北手を絵に表しました。

最優秀賞 阿部 怜さん 受賞コメント：

下北手地区社会福祉協議会の50周年という記念すべき年に、私のシンボルマークを選出していただき嬉しい思いでいっぱいです。

私がシンボルマークを考える上で大切にしていたことは、誰でも下北手のものだと分かり、老若男女問わずなじみやすいものにする事です。シンボルマークでは、下北手の象徴である藤の花、人々が幸せに暮らしている様子を力強い感じで表現しました。私はこのシンボルマークに、自然の多いこの下北手で誰もが笑顔で幸せに過ごしてほしいという思いを込めました。

このシンボルマークに込めた思いが、下北手でこれからもずっと続くことを願っています。

秋田公立美大 美術教育センター教授 尾澤 勇氏 講評：

すべての作品見せていただきました。下北手の良さを、自然のモチーフとか文字などを組み合わせて表現しているシンボルマークが多かったと思います。自然とか季節とか、下北手の字、地区の頭文字だとか、そういうものを散りばめて、工夫して考えていただいたのではないかなと思います。その中で、より下北手らしさが構図やまとまり、強さが出てくるものが、優秀賞などの、上位に上がってきたと思います。ただ、デザインをする上で気をつけてほしいことがあります。知らず知らずのうちに世の中でよく見られているようなモチーフや形体のデザインに引きずられて、どこかでこれみたことあるな？みたいな、既存のデザインの焼き直しになっていないかを考えていただければと思います。人間国宝の富本憲吉という陶芸家があります。富本憲吉さんは、「図案から図案を作らない」ということを心掛けた人です。とかく人は既存のデザインをアレンジして制作がちです。図案のスタートは、表したい魅力あると感じた自然やモチーフを自分の目で見てスケッチを繰り返し、そこから図案を導きだしていくことが大切です。既存の図案からそれを改変して作るようなことはしないっていうことを富本憲吉は言っています。だからどこかで見たようなデザインじゃなくて、やっぱり自分がいいなって思った自然とか下北手の良さっていうものをちゃんと盛り込んでいけるのが重要です。どこかで見たものをそれっぽく入れてるのではなくて、自分が感じた下北手とか、下北手のモチーフというのをきちんと自分の表したい主題を基にシンボルマークに纏め上げていた作品がよい作品です。全体的にみなさんしっかり考えていただいたと思います。この講評を見ていただいて、これからやっぱりシンボルマークつくる時に、自分の故郷の自分の地域の良さって何だろうかをいろいろ考えていただいて、ふるさとへの眼差しをつくるきっかけにいただけたら幸いです。以上です。

国際教養大学 国際教養学部准 教授 千葉加恵子氏 講評：

はいえっとこれを機に皆さん。自分の地元がなんなのかなっていうのを、なんかこう深く考えてくださったなあっていうのをすごく感じました。うん、捉え方が皆さん、一人ずつ違うなって言うのを感じたんですけど、でも。きっかけとなって、これからはねと地元大切にしていけるのではないかなと思います。ええ、あの色使いとかが、やはりこう自然にあればですね。自然豊かになっていくのがテーマだったのでも、まあその自然豊かになっていくのも、一人ずつすごく強く感じられます。色合いに入れたり、あのデザインに入れたり、うん、あの、すごく印象的だったのはこう。強さの中にも優しさがあつたりとか、でもあのとていい地域なので、うん、もっと、もっとこう、自然を自然とともにあの楽しく生きていけるようなシンボルマークが選ばれたのではないかなと思います。

下北手地区社会福祉協議会 会長 長谷川武司 講評：

下北手地区は田園と丘陵地の間に人々の暮らしがある地域です。私達がシンボルマークを求めるに当たって自然豊かな下北手を象徴するというテーマを設けた理由が、この地域性にありました。

この難題かもしれないテーマに正面から取り組み、小学生や高校生、一般の方々から多くの作品が寄せられたことに心から感謝しております。応募作品はどれも下北手地区を自分の目で見て描き、それに将来への夢を重ねて表現されていると思えました。人口減少という厳しい現実ではありますが、皆様の懐いている夢の中に成長するキーになるものがあると思いを期待しています。

選考風景のダイジェスト動画や各選考委員の講評、選考風景を下北手地区社会福祉協議会のホームページにアップロードしています。ぜひご覧ください。

〒010-0052 秋田市下北手柳館字前田133
下北手地区コミュニティセンター内 下北手地区社会福祉協議会
☎ 018-833-1461
✉ info@simokitate.jp



地域情報・行事など、ぜひお寄せください www.simokitate.jp